高田ほのか

受賞歴：未来賞次席、現代歌人協会主催全国短歌大会選者賞、角川全国短歌大賞「与謝野晶子短歌文学賞姉妹賞」他、受賞歴多数

メディア掲載：五大紙新聞、テレビ、ラジオ、NHK「あさイチ」「ニュースほっと関西」「おはよう日本」、女性誌、Web 媒体など

小学生のころ少女マンガ雑誌『りぼん』のモノローグに惹かれ 2009 年より短歌の創作を開始。自らも短歌を詠むかたわら、短歌の世界をわかりやすく楽しく伝えることをモットーに、短歌教室や短歌の講演、執筆活動などを行う。短歌の裾野を広げる活動が多くのメディアに取り上げられ共感を呼んでいる

活動歴：2016 年 ドイツ人作家マティアス・ポリティキ著『アサヒ・ブルース』のドイツ語の TANKA を短歌に翻案

2017 年　歌集『ライナスの毛布』(書肆侃侃房)

2018 年　歌集『100 首の短歌で発見！天神橋筋の店　ええとここここやで』は「大阪らしい文化発信の観光と商業活性化 2 つの面からアピール要素がある歌集として 100 年後大阪の遺産になる」と文化庁の協力名義を受ける

2019 年～ 関西を拠点に尽力する社長をインタビューしその“原点”を短歌とコラムにする活動中。大阪万博が開催される 2025 年に 100 社、100 首を完成させ、歌集と展示会を開催予定

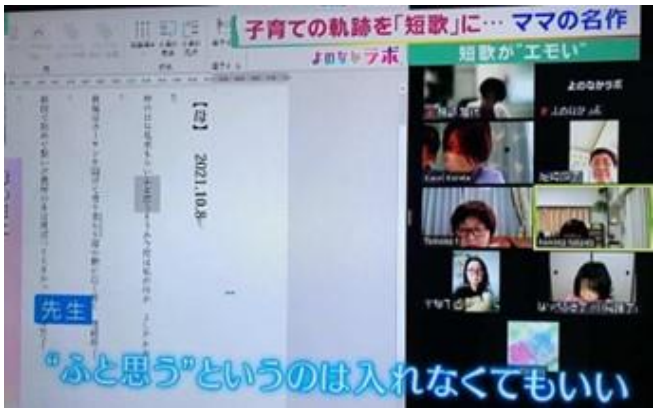
2020 年　主宰する短歌教室での取り組み、「医療従事者へ贈る短歌」が毎日新聞、夕刊フジ全国版に掲載。“令和の歌人”として紹介される

2021 年　『基礎からわかるはじめての短歌』(メイツ出版) 監修

2022 年 さかい利晶の杜(千利休・与謝野晶子のミュージアム)に高田の詠んだ短歌パネル常設展示

2023 年 4 月～　産経新聞にて、「短歌で見つける経営者の心」短歌コラム連載

経歴：大阪出身、在住。短歌教室ひつじ主宰 関西学院大学文学部心理学科卒 未来短歌会所属 テレビ大阪放送審議会委員　関西大学、同志社女子大学、京都精華大学、大阪経済大学、パナソニック、ダスキン、京都国際マンガミュージアムなどで講演・講義を行い、2022 年までに短歌の魅力を 10,000 人以上の参加者に伝えている。2010 年から主宰する短歌教室ひつじは、2020 年よりオンライン教室を開始。海外からの受講生も増えている。



関西テレビ「報道ランナー」、ＮＨＫ「あさイチ」から取材を受け、高田が短歌の指南

活動の風景

同志社女子大学 特別公開講義
「『りぼん』はお好き?少女マンガの表現と読書体験」

マティアス・ポリティキ著『アサヒ・ブルース』短歌の翻案 講演会

京都国際漫画ミュージアム
ひな祭り短歌ワークショップ

大阪教育大学附属平野小学校 講演
「ココロに効く短歌のつくりかた」

Honoka Takada

profile ——— 高田ほのか

歌人。大阪出身、在住。関西学院大学文学部卒。テレビ大阪放送審議会委員。小学生のころ少女マンガのモノローグに惹かれ2009年より短歌の創作を開始。自らも歌を詠むかたわら、短歌の世界をわかりやすく楽しく伝えることをモットーに、教室や講演、執筆活動などを行う。短歌の裾野を広げる活動が新聞、テレビなど多くのメディアに取り上げられ共感を呼んでいる。公式サイトhttps://honokatanka.com

歌人・短歌教室「ひつじ」主宰

高田ほのかさん

育児中のちょっとした瞬間を切り取る

関西を中心に短歌教室を開く歌人高田ほのかさん。最近はオンライン授業も開講し、日本全国、海外からの受講生も集まっているとか。その中には育児中のお母さんたちも。なぜ今短歌が人気があるのか。歌を詠むことの効用を伺いました。

——今、短歌が人気だと言われます。多くの人が興味を持つ理由は何でしょうか?

ここ十数年ほどでしょうか。SNSが急速に普及して、短い言葉で即座に相手に言葉を返すせがついた人が多くなっています。自分は何を伝えたいのか、相手は何を言わんとしているのかゆっくり考える間もなく、薄い言葉のやりとりがなされる。そういった中で、31文字という短い中に自分の本音をとじこめられる、中身の濃い短歌が求められるようになってきたのではないかと感じています。コロナ以降は特に、「自分の心のはけ口のようなものがない、息苦しい」とおっしゃって教室に入る方も多いですね。短歌には5・7・5・7・7という型があるからこそ、自分でもなかなか気づかない本音みたいなものにたどり着きやすい。人と会う機会が減って、心のうちを話すことに躊躇してしまうことも多いけれど、生徒さんを見ていると、定型に乗せることで本心をさらけ出せるというのは確かにあるようです。誰もが気軽に自分の主張を発信できるSNSの時代に、意識の方向性が内側へ向く、短歌という表現形式がフィットしたこともあるでしょう。誰かにこの思いを伝えたい、日記よりも手紙に近い感覚です。SNSなどで短歌をつぶやくと、反応してくれる人がいる。反応があると、また作りたくなる。今、短歌が盛り上がってきている理由もそのあたりにあるのではないでしょうか。

——育児中に歌を詠むという人は教室にもいますか?

受講生には30代、40代の女性も多く、お子さんとのやりとりや成長の記録として短歌を作る方もいます。子どもとディズニーランドに行ったというような大きな出来事はもちろん、それよりもっと些細なこと。初めて小さな爪を切ったとか、ハイハイしたという、写真にも残らないようなちょっとしたこと。慌ただしく過ぎていく日々の中のささいな、けれど自分にとってはかけがえのない瞬間。短歌はそんな瞬間を切り取るのにぴったりの文芸だと思うんです。例えば、山本夏子さんの歌集『空を鳴らして』には「こんなにもつばめはゆっくり飛べるのか子に飛び方を教えるときは」など、母親である作者ならではの視点で詠まれた歌が多く収録されていて、VERYの読者にもおすすめのです。短歌に触れていると五感が鋭くなり、今まで気づかなかった日常の中の匂いや温度を感じられるようになります。仕事や育児で忙しく過ごす日々の中にも“短歌のタネ”は必ずある。「あっこれも短歌になる!」と思った瞬間、ちょっと心が軽くなるんです。なかなか遠くには行けなくても、自分の思考を変えるだけで見慣れた景色が変わって見えてくる。短歌は、あなたの日常を豊かにしてくれる魔法の杖なんです。

『はじめての短歌 上達のポイント』(メイツ出版・¥1,496)

一瞬の思いを31音に託して。短歌のルールから表現の磨き方まで、思いどおりに詠むコツをやさしく解説する。3刷。

短歌教室「ひつじ」生徒

岡野優子さん

(ロンドン在住・息子7歳、娘2歳)

異国で子育てをしながら詠む短歌

——実際に歌を詠む読者はどんなことを考えているの? 現在、英国で暮らし、育児をするかたわら短歌を作っているという岡野さんに話を聞きました。

子育てをする日々の中で、新鮮な発見に出くわすことがよくあります。一つ一つは決して大きなインパクトがあるわけではないし、時間がたてば忘れてしまうようなことですが、確かに自分の心を動かした出来事を短歌にしています。独身時代に約1年間、短歌教室に通っていました。その後、結婚し、出産や夫の転勤の帯同もあり、数年間、歌を詠む生活から遠ざかっていましたが、昨年からオンラインでの短歌教室に参加するように。短歌を再開したのは、コロナ禍にイギリスに引っ越し、人間関係を一から築き始めていた頃。このような時期に、自分の心の内を表した短歌を発表し、それに対して教室で共感の声をもらい、心と心のつながりが実感できる機会があったことは、自分の気持ちを安定させるうえで大きかったように思います。

短歌を始めた頃作ったのは、ほとんどが恋愛の歌でした。与謝野晶子の情熱的な短歌に影響を受けていた記憶があります。改めて振り返ると、キャピキャピした歌か、重たい歌のどちらかです(笑)。今は子育ての歌がメイン。自分の短歌を辿ると子どもの成長を改めて感じます。短歌は、31文字に自分の想いを込めないといけないので、一つの歌に多くの要素を詰め込むことができません。どんなに想いが溢れていても、冷静に整理する作業が必要になります。余分なものをそぎ落として、自分が伝えたいことと向き合いながら作っています。その甲斐あってか、以前は、心がざわついたり、惑わされたりするようなことがあると、浮き足立った気持ちやネガティブな感情を引きずることがあったのですが、最近は以前に比べて気持ちを整理して冷静に捉えられるようになってきました。

Yuko Okano

じゃないなと腑にしまいこむようになっていました。でも、取材をしてわかったのは人に言えない悩みも胸のつかえも歌にしてよかったんだということ! 私もまた歌を詠みたくなりました。こんなふうに。

グッモーニン人生どうでも飯田橋人生どうにか
鳴門大橋(初谷むい『わたしの嫌いな桃源郷』)
「離婚したら息子どっちになるのがいい?」走るポルボの灰皿あふれる(上坂あゆ美『老人ホームで死ぬほどモテたい』)
パーミヤンの桃ばっかんと割れる夜あなたを殺れば苦員がくる(柴田葵『母の愛、僕のラブ』)

※歌集はすべて書肆侃侃房

高田ほのかさんの短歌教室に体験入学しました。とても楽しくて刺激的な時間でした。(ライター高田)

 取材・文/高田翔子 編集/フォレスト・ガンプJr. デザイン/Permanent Yellow Orange